2023年度シラバス

| 科目名:言語学特論Ⅰ | 担当者:都　恩珍 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:本年度遠隔授業対応可能科目 | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
この授業は、地域文化専攻多文化共生社会の創造のために貢献できる高度な専門知識、語学能力、汎用的思考力を身に付けるためのものである。授業では、応用言語学の研究領域中でも、とりわけ談話分析を取り上げつつ、母語話者と非母語話者のインターアクションの場面にフォーカスを当て考察する。関連文献やテキストを精読し、自分なりの理解を述べながら討議し、最後に与える主題についてレポートを提出する。

授業の到達目標
会話の構造・体系を分析することができる。（DP)
接触場面言語学の知識を身に付けることができる。（DP)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実際の会話を文字化し、データから規則性を見つける。
授業外に必要とされる学習時間：約4時間

評価方法
テキストの各テーマの要約と意見のまとめ（40%）
期末のレポート（「短い会話を分析する」）と発表（40%）
学修活動への参加（課題への取り組み・授業中の意見交換などの姿勢）（20%）
次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についてフィードバックする。

教科書
『接触場面の言語学』　村岡英裕　ココ出版　2016年

参考図書
『留学生の日本語は、未来の日本語　日本語の変化のダイナミズム』　金澤裕之　ひつじ書房　2008年
『談話分析のアプローチ　理論と実践』林宅男編　研究社　2008年
『話し言葉の談話分析』デボラ・カメロン著、林宅男訳　ひつじ書房　2012年
『文献・インタビュー調査から学ぶ会話データ分析の広がりと軌跡　研究から実践まで』　ナカニシヤ出版　2017年

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日常の「ことば」を研究の対象として観察すると様々な規則性が見えてきます。そのことを意識して取り組みましょう。
連絡先は授業中に提示します。オフィスアワー：水曜２限、金曜2限

| | |
|---|---|
| 01 | 談話分析とは何か |
| 02 | データ収集と文字化 |
| 03 | 談話分析のアプローチ（1） |
| 04 | 談話分析のアプローチ（2） |
| 05 | 談話分析のアプローチ（3） |
| 06 | 談話分析のアプローチ（4） |
| 07 | 談話分析のアプローチ（5） |
| 08 | 談話分析のアプローチ（6） |
| 09 | 接触場面研究（1） |
| 10 | 接触場面研究（2） |
| 11 | 接触場面研究（3） |
| 12 | 接触場面研究（4） |
| 13 | 接触場面研究（5） |
| 14 | 接触場面研究（6） |
| 15 | まとめと発表 |
| 16 | なし |

2023年度シラバス

| 科目名:言語学特論Ⅱ | 担当者:都　恩珍 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:本年度遠隔授業対応可能科目 | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
この授業は、地域文化専攻多文化共生社会の創造のために貢献できる高度な専門知識、語学能力、汎用的思考力を身に付けるためのものである。授業では、移民時代の言語政策的な観点から、多言語共生・多文化共生と日本語教育の問題を取り上げる。とりわけ、地域の日本語教育の課題にフォーカスを当てて考察する。関連文献やテキストを精読し、自分なりの理解を述べながら討議し、最後に与える主題についてレポートを提出する。

授業の到達目標
日本語教育を政策的に捉えることができる。（DP)
日本語教育を通して実践研究の可能性を考えることができる。（DP)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
地域における日本語支援の事例を集め、現状を分析する。
授業外に必要とされる学修時間：約4時間

評価方法
テキストの各テーマの要約と意見のまとめ（40%）
期末のレポート（「地域における日本語支援の現状」）と発表（40%）
学修活動への参加（課題への取り組み・授業中の意見交換などの姿勢）（20%）
次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についてフィードバックする。

教科書
『人の主体性を支える日本語教育　地域日本語教室のアクション・リサーチ』　野々口ちとせ　ココ出版　2016年

参考図書
『公共日本語教育学　社会をつくる日本語教育』　川上郁雄編　くろしお出版　2017年
『日本語教育はとこへ向かうのか』　牲川波都季編　くろしお出版　2019年
『実践研究は何をめざすか　日本語教育における実践研究の意味と可能性』　細川英雄・三代純平　ココ出版　2014年

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日常の「ことば」を研究の対象として観察すると様々な規則性が見えてきます。そのことを意識して取り組みましょう。
連絡先は授業中に提示します。オフィスアワー：水曜２限、金曜2限

| | |
|---|---|
| 01 | 日本語教育はどこへ向かうのか（1) |
| 02 | 日本語教育はどこへ向かうのか（2) |
| 03 | 日本語教育はどこへ向かうのか（3) |
| 04 | 日本語教育はどこへ向かうのか（4) |
| 05 | 地域日本語教育のアクション・リサーチ（1) |
| 06 | 地域日本語教育のアクション・リサーチ（2) |
| 07 | 地域日本語教育のアクション・リサーチ（3) |
| 08 | 地域日本語教育のアクション・リサーチ（4) |
| 09 | 地域日本語教育のアクション・リサーチ（5) |
| 10 | 地域日本語教育のアクション・リサーチ（6) |
| 11 | 地域日本語教育のアクション・リサーチ（7) |
| 12 | 公共日本語教育学を考える（1) |
| 13 | 公共日本語教育学を考える（2) |
| 14 | 公共日本語教育学を考える（3) |
| 15 | まとめと発表 |
| 16 | なし |

2023年度シラバス

| 科目名:哲学特論Ⅰ | 担当者:井上　文人 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:本年度遠隔授業対応科目 | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
哲学とは、〈世界の在り方〉とその中での〈人間の生き方〉を考察する学問である。本哲学特論は、「教育・保育分野での人材育成に必要」な「多文化共生社会の創造のため」の〈人間の生き方〉を探究する。具体的には、通常の人間が生きる日常の中の様々な生き方の諸問題を考察する『14歳の哲学』という素材を扱うことを本授業の授業概要とし、その素材の読解とそれに基づく〈哲学対話〉を授業の方法として本授業は遂行される。

授業の到達目標
哲学特論は、哲学の専門知識（DP）を平易な日常的表現で高度に運用展開する『14歳の哲学』（池田晶子）という素材の読解とその読解の自己表現に基づく哲学対話によって、自己の思考力・文章力・批判力の汎用的思考力（DP）の養成を介して、人間の生き方を〈哲学する〉という哲学的思考を修得することを授業の到達目標としている。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：授業の準備学修として資料の該当箇所の事前の読解・熟考・表現は必需である：２時間。
事後学修：各授業で扱われた生き方の諸問題の継続的な考察が重要である：２時間。

評価方法
平常点（授業の準備状況や受講態度等）〔50%〕とレポート試験〔50%〕を、ルーブリックにある「学修成果としての能力」に照らして、合計100点満点の総合評価で行う。最終授業時に全体向けにフィードバックを行なう。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 教科書は使用しない。毎回資料を配布する。 | 授業中に適宜指示する。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日常的に様々な問題を〈哲学する〉姿勢を持とうとすることが重要である。
連絡先は授業で開示する。

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション・考える１：思う |
| 02 | 考える２：正しさ |
| 03 | 考える３：本当 |
| 04 | 言葉１：意味 |
| 05 | 言葉２：現実 |
| 06 | 自分とは誰か |
| 07 | 死をどう考えるか |
| 08 | 体の見方 |
| 09 | 心はどこにあるか |
| 10 | 他人とは何か |
| 11 | 家族 |
| 12 | 社会 |
| 13 | 規則 |
| 14 | 理想と現実 |
| 15 | 友情と愛情 |
| 16 | なし |

| 科目名:哲学特論Ⅱ | 担当者:井上　文人 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:本年度遠隔授業対応科目 | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
哲学とは、〈世界の在り方〉とその中での〈人間の生き方〉を考察する学問である。本哲学特論は、「教育・保育分野での人材育成に必要」な「多文化共生社会の創造のため」の〈人間の生き方〉を探究する。具体的には、通常の人間が生きる日常の中の様々な生き方の諸問題を考察する『14歳の哲学』という素材を扱うことを本授業の授業概要とし、その素材の読解とそれに基づく〈哲学対話〉を授業の方法として本授業は遂行される。

授業の到達目標
哲学特論は、哲学の専門知識（DP）を平易な日常的表現で高度に運用展開する『14歳の哲学』（池田晶子）という素材の読解とその読解の自己表現に基づく哲学対話によって、自己の思考力・文章力・批判力の汎用的思考力（DP）の養成を介して、人間の生き方を〈哲学する〉という哲学的思考を修得することを授業の到達目標としている。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修：授業の準備学修として資料の該当箇所の事前の読解・熟考・表現は必需である：２時間。
事後学修：各授業で扱われた生き方の諸問題の継続的な考察が重要である：２時間。

評価方法
平常点（授業の準備状況や受講態度等）〔50%〕とレポート試験〔50%〕を、ルーブリックにある「学修成果としての能力」に照らして、合計100点満点の総合評価で行う。最終授業時に全体向けにフィードバックを行なう。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 教科書は使用しない。毎回資料を配布する。 | 授業中に適宜指示する。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日常的に様々な問題を〈哲学する〉姿勢を持とうとすることが重要である。
連絡先は授業で開示する。

| | |
|---|---|
| 01 | 恋愛と性 |
| 02 | 仕事と生活 |
| 03 | 品格と名誉 |
| 04 | 本物と偽物 |
| 05 | メディアと書物 |
| 06 | 宇宙と科学 |
| 07 | 歴史と人類 |
| 08 | 善悪１：善悪 |
| 09 | 善悪２：基準 |
| 10 | 自由 |
| 11 | 宗教 |
| 12 | 人生の意味１：存在の意味 |
| 13 | 人生の意味２：運命と自由 |
| 14 | 存在の謎１：自分の謎 |
| 15 | 存在の謎２：宇宙の謎・まとめ |
| 16 | なし |

| 科目名:English Linguistics Ⅰ | 担当者:内田　政一 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
本授業では、英語学の多岐に渡る研究領域を深く理解し、各領域において基本的な思考法と専門用語を確認し、どのような研究課題が存在するかを考えて行く。毎回、各テーマについて事前に予習をしておき、中心となる課題について議論し、整理し、自分の言葉で考察を加えることで、英語学的な発想とその理解を深めて行く。

授業の到達目標
英語学的な思考法を理解する。データを整理し、問題点を抽出する能力を養う。また機能的な学習により発見学習の素地を構築する。【DP】

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
事前に示したテーマについて、予習をしておくのと同時に、自分なりの考察をしておくこと。

評価方法
授業でのプレゼンテーション50%　課題レポート50%　前回のフィードバックは翌週行います。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| Linguistics Adrian AKMAJIAN　他　著　　MIT Press | その都度指示する。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
辞書を必ず持参すること。

| | |
|---|---|
| 01 | What is linguistics? |
| 02 | Morphology:The study of the structure<br>Morphology:The study of words |
| 03 | Phonetics and Phonemic Transcription |
| 04 | Phonology:The study of sound structure |
| 05 | Syntax:The study of sentence structure (Some background concepts) |
| 06 | Syntax:The study of sentence structure (A more formal account of syntactic theory) |
| 07 | プレゼンテーション |
| 08 | Semantics:The study of meaning and denotation (Semantics as a part of grammar) |
| 09 | Semantics:The study of meaning and denotation (The scope of a semantic theory) |
| 10 | Language variation |
| 11 | Language change |
| 12 | Pragmatics:The study of language use and communication |
| 13 | Psychology of language: Speech production and comprehension |
| 14 | Language acquisition in children |
| 15 | Language and the brain |
| 16 | なし |

2023年度シラバス

| 科目名:English Linguistics Ⅱ | 担当者:内田　政一 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
本授業では、英語学の多岐に渡る研究領域を深く理解し、各領域において基本的な思考法と専門用語を確認し、どのような研究課題が存在するかを考えて行く。毎回、各テーマについて事前に予習をしておき、中心となる課題について議論し、整理し、自分の言葉で考察を加えることで、英語学的な発想とその理解を深めて行く。

授業の到達目標
英語学的な思考法を理解する。データを整理し、問題点を抽出する能力を養う。また機能的な学習により発見学習の素地を構築する。【DP】

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
事前に示したテーマについて、予習をしておくのと同時に、自分なりの考察をしておくこと。

評価方法
授業でのプレゼンテーション50%　課題レポート50%　前回のフォードバックは翌週行います。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| First Verbs: A case study of early grammatical development Michale Tomasello著　Cambridge university Press. | その都度指示する。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
辞書を必ず持参すること。

| | |
|---|---|
| 01 | Introduction and Cognitive linguistics and the development |
| 02 | The importance of verbs |
| 03 | In the beginning was verbs (Children's first verbs) |
| 04 | In the beginning was verbs (Children's first sentences) |
| 05 | Methods and an introduction to T's language (Semantics analysis of verbs) |
| 06 | Methods and an introduction to T's language (Syntactic analysis of sentences) |
| 07 | Change of state verbs and sentences (Exchange and possession of objects) |
| 08 | Change of state verbs and sentences (Location of objects and Movement of objects) |
| 09 | プレゼンテーション |
| 10 | Activity verbs and sentences (Activity involving objects) |
| 11 | Activity verbs and sentences (Activity not involving objects) |
| 12 | Other grammatical structures |
| 13 | Complex sentences |
| 14 | The development of T's grammar |
| 15 | Language acquisition as cultural<br>Language acquisition as cultural learning |
| 16 | なし |

2023年度シラバス

| 科目名:English Linguistics Ⅲ | 担当者:内田　政一 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
本授業では、英語学の多岐に渡る研究領域を深く理解し、各領域において基本的な思考法と専門用語を確認し、どのような研究課題が存在するかを考えて行く。本授業ではとりわけSLAに焦点をおくこととすル。毎回、各テーマについて事前に予習をしておき、中心となる課題について議論し、整理し、自分の言葉で考察を加えることで、英語学的な発想とその理解を深めて行く。

授業の到達目標
英語学的な思考法を理解する。データを整理し、問題点を抽出する能力を養う。また機能的な学習により発見学習の素地を構築する。【DP】

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
事前に示したテーマについて、予習をしておくのと同時に、自分なりの考察をしておくこと。

評価方法
授業でのプレゼンテーション50%　課題レポート50% 前回の復習・フォードバックについては翌週行います。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 廣森友人著　英語学習のメカニズム　第二言語習得研究にもとずく効果的な勉強法　大修館 | その都度指示する |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
辞書を必ず持参すること。

| | |
|---|---|
| 01 | ガイダンス　人がことばを習得するということについて |
| 02 | 第一言語獲得と第二言語習得について |
| 03 | 第一言語獲得におけるチョムスキーの言語習得理論 |
| 04 | 第一言語獲得におけるトマセロの言語習得理論 |
| 05 | ディスカッション |
| 06 | コミュニケーションとは何か：言語教育の観点から考える |
| 07 | コミュニケーションとは何か：英語教育の観点から示唆 |
| 08 | プレゼンテーション |
| 09 | 第二言語習得とは何か(SLA概要・専門用語の確認) |
| 10 | 第二言語習得研究の魅力 |
| 11 | グローバル社会の英語教育について |
| 12 | 英語を取り巻く世界の現状について |
| 13 | 第二言語習得のプロセス |
| 14 | 日本人は英語はできないのか：言語的な距離 |
| 15 | 日本語と英語の捉え方の相違について |
| 16 | なし |

2023年度シラバス

| 科目名:English Linguistics Ⅳ | 担当者:内田　政一 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
本授業では、英語学の多岐に渡る研究領域を深く理解し、各領域において基本的な思考法と専門用語を確認し、どのような研究課題が存在するかを考えて行く。本授業はとりわけSLAに焦点を置くことする。毎回、各テーマについて事前に予習をしておき、中心となる課題について議論し、整理し、自分の言葉で考察を加えることで、英語学的な発想とその理解を深めて行く。

授業の到達目標
英語学的な思考法を理解する。データを整理し、問題点を抽出する能力を養う。また機能的な学習により発見学習の素地を構築する。【DP】

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
事前に示したテーマについて、予習をしておくのと同時に、自分なりの考察をしておくこと。

評価方法
授業でのプレゼンテーション50%　課題レポート50% 前回のフィードバックは翌週行います。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 廣森友人著　英語学習のメカニズム　第二言語習得研究にもとずく効果的な勉強方法　大修館 | その都度指示する。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
辞書を必ず持参すること。

| | |
|---|---|
| 01 | ガイダンス　SLAの専門用語復習・前期の確認 |
| 02 | 言語習得の第一歩：インプット |
| 03 | 必要なインプットの「質」「量」「その効果的な方法」 |
| 04 | 言語知識の自動化：アウトプット |
| 05 | 必要なインプットの「質」「量」「その効果的な方法」 |
| 06 | ロングのインターラクション仮説 |
| 07 | 言語学習をサポートする原動力：動機づけ |
| 08 | プレゼンテーション |
| 09 | 自律的な言語学習のために：学習方略、メタ認知能力 |
| 10 | 英語学習の多様な方法 |
| 11 | 個性にあった学びのあり方：学習スタイル、性格（内向性と外交性） |
| 12 | 英語学習は早くから始めるべきか：臨界期仮説と児童英語教育を考える |
| 13 | 様々な英語教授法：教える手法はどのよう<br>様々な英語教授法：教える手法はどのように進化したか |
| 14 | 文法教育は必要なのか：明示的手法と暗示的手法 |
| 15 | 自分の英語学習に活かせること：自分の外国語学習を振り返り、分析し、検討する |
| 16 | なし |

2023年度シラバス

| 科目名:British Literature Ⅰ | 担当者:渡辺　美樹 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
文学作品は文学的伝統の中で作られていく。文学作品中に表れる庭園もまた文学的な伝統を踏まえて表現されている。庭園をモチーフにもつ文学作品を読み理解することが授業の中心となるが、作品中の挿絵もまた読解を助けるものである。挿絵に対する意識を高めるために授業の初めに紹介した絵本を実際に読んでもらうことで絵と文とのつながりを意識してもらうことになる。その後に庭の描かれたいくつかの作品を読むことにする。ただし受講者の人数や要望によって授業方法を変えることがあり得る。

授業の到達目標
庭園をテーマとする作品を読むことで、文学的な伝統を理解すると同時にカルチュラル・スタディズの方法論を知悉したうえで、英文学の中にあらわれる空間表象の特徴を把握できる。庭園表象に対する理解度によって到達目標が達成できたかどうかを計るものとする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修として1）紹介された絵本を実際に声を出して読めるようにしておくこと、2）庭をモチーフとした作品を事前に読んで疑問点を挙げておくこと。事後学修として1）紹介された絵本の絵と文字の関係を考えておくこと、2）個々の作品の中で庭という空間形象の意義について考えること

評価方法
1.授業前に提出する疑問点のリスト10%　2. 音読20% 3. 試験 30%　4. レポート　40%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| "The Topiary Garden," "The Secret Garden," "Tom's Midnight Garden," "The Graveyard Book " | "The Selfish Giant""Joseph's Yard" "The Giving Tree" "The Three Pigs" "The Tree of Life""Rosie's Walk" |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
用事がある場合にはメールで連絡を取ってください。また使うテクスト等については統一した方がよいので授業開始時に指示する。参考資料も同様に授業中に指示する。

| | |
|---|---|
| 01 | 庭園について |
| 02 | 絵本Rosie's Walk、The Topiary Gardenを読む |
| 03 | 絵本Rosie's Walkの絵と文、The Topiary Gardenにおけるフォーマル・ガーデンについて |
| 04 | 童話The Selfish GiantおよびThe Secret Gardenと女主人公メアリの遊びについて |
| 05 | The Selfish GiantとThe Secret Gardenの庭について |
| 06 | 絵本The Giving Treeを読み、The Secret Gardenの母親像について考える |
| 07 | 絵本The Giving TreeおよびThe Secret Gardenのまとめ |
| 08 | The Three Pigsの様々な絵本とTom's Midnight Gardenの問題点について |
| 09 | The Three Pigsの子豚像とTom's Midnight Gardenと女主人公ハティ |
| 10 | The Three Pigsのオオカミ像とTom's Midnight Gardenと主人公トム |
| 11 | 現代絵本Joseph's YardおよびTom's Midnight Gardenと裏庭 |
| 12 | Joseph's YardとTom's Midnight Garden　まとめ |
| 13 | 現代絵本The Tree of Lifeの読解およびThe Graveyard Bookと囲われた庭としての墓場について |
| 14 | The Tree of Lifeにおける主人公およびThe Graveyard Bookと主人公の子ども時代 |
| 15 | The Tree of LifeおよびThe Graveyard Book　まとめ |
| 16 | 試験 |

| 科目名:British Literature Ⅱ | 担当者:渡辺　美樹 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
文学作品は文学的伝統の中で作られていく。文学作品中に表れるクリスマスに関して読んでいくことによって、カルチュラル・スタディズの方法論を学ぶと同時に、英文学の中にあらわれる〈クリスマス〉を概観することでヴィクトリア朝でクリスマスが変化したことがわかる。19世紀にはクリスマス向けに小説や絵本が出版されるようになったので、一番有名なディケンズの『クリスマス・キャロル』を中心に読んでいくが、絵本も交えて考えていくこととする。ただし受講者の数や要望によって方法や作品を代えたりすることもある。

授業の到達目標
卑近な目標としては、19世紀の英語を理解できることである。クリスマスを通じて英国文化への理解を高めることにある。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
前もって作品を読んでくること。また事後学修として他にどのような作品や習慣があるのか調べてみること。

評価方法
1. 試験　30%　2. レポート 50%　3. 授業時間内におけるクリスマスに関する発表　20%

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| "A Christmas Carol""Hobberdy Dick""The Night Before Christmas""Father Christmas""On Christmas Eve" | "Oranges Are Not the Only Fruit" "The Lion, The Unicorn and Me"" a Christmas Story" "Tilly's Rescue" |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
用がある場合はメールで連絡をすること。その他の参考資料等は授業中に提示する。

| | |
|---|---|
| 01 | 文学作品の中に現れるクリスマスの紹介 |
| 02 | A Christmas Carol, Stave 1: Marley's Ghost |
| 03 | A Christmas Carol, Stave 2: The First of the Three Spirits |
| 04 | A Christmas Carol, Stave 3: The Second of the Three Spirits |
| 05 | A Christmas Carol, Stave 4: The Last of the Three Spirits |
| 06 | A Christmas Carol, Stave 5: The End of It |
| 07 | Christmas in "Hobberdy Dick"by K.M.Briggs |
| 08 | Christmas in "Oranges Are Not the Only Fruit" by Jeanette Winterson |
| 09 | "The Lion, The Unicorn and Me" by Jeanette Winterson |
| 10 | Will Stanton on Christmas in "The Dark Is Rising Sequence" by Susan Cooper |
| 11 | "On Christmas Eve" by Margaret Wise Brown & Beni Montresor |
| 12 | "The Remarkable Christmas of the Cobbler's Sons" by Ruth Sawyer &Barbara Cooney |
| 13 | "Tilly's Rescue" by Faith Jaques |
| 14 | "Father Christmas" And "Father Christmas Goes On Holiday"by Raymond Briggs |
| 15 | "A Christmas story" "The Twelve Days of Christmas" "A Christmas Journey" by Wildsmith |
| 16 | 試験 |

2023年度シラバス

| 科目名:American Literature Ⅰ | 担当者:小林　愛明 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許･資格:中学校･高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
この科目はディプロマポリシーに謳われている「専門用語を使用でき理解している」、「研究に必要な思考力（発言力も含む）を身につけている」、「英語を使用した読解力、表現力を身につけている」等に準じて展開される。A. 授業内容 アメリカの代表的な文学作品を読み、歴史・文化・地理的背景について学ぶ。 B. 授業方法 講義を基本としつつ、各作品の暗記や朗読、分析とレポート、議論と発表などを行う。 C. グループワーク、演技・朗読、プレゼンテーションなどの活動を行う。

授業の到達目標
１．アメリカ文学における名詩、名場面、名台詞の暗唱ができるようになる、２．アメリカ文学における代表的詩人を知り、説明ができるようになる、３．アメリカ文学における代表的詩作品の歴史・文化・地理的背景を説明できるようになる。

【到達目標と深く関連する、基準とするDP】
◎専門用語を使用でき理解している（DP）
◎①研究に必要な思考力（発言力も含む）を身につけている（DP）
◎②研究に必要な文章力(プレゼンの力も含む)を身につけている（DP）
◎③研究に必要な情報を整理し繋げ批判する力を身につけている（DP）
◎①英語を使用した読解力、表現力を身につけている（DP）
◎②英語を使用した授業力を身につけている（DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
１．毎週、予習範囲を指定するので、そこを読んで内容をまとめてくること。２．授業後は1.と同じ用紙に授業のまとめと感想を書いて提出すること。なお、１回の授業に対して４時間程度の予習復習をすること。

評価方法
A. 評価の方針　授業中の議論、文章作成への参加とリフレクションの提出を基本に評価する。B. リフレクションとフィードバック　C. 評価に関する要件　①毎回の小レポートの作成（40%）、②講義や議論への参加意欲（20%）、③期末レポート（40%）

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 毎回教員がテキストを配布する。 | 講義中に案内する。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
資料提示はMoodle等を用いて行う。作品の一部を英語で読むので、毎回辞書を持参すること。なお、辞書はリーダーズ・プラス程度のものが望ましい。オフィスアワーに関しては講義内で告知する。連絡手段に関してはMoodleとメールを使用する（LINEなどのSNSは用いない）。レポート作成時には関連図書を図書館で借りる、または自分で買うようにすること。公共交通機関等で遅延等が発生した場合は、原則的に駅で発行される証明書を持参すること。

| | |
|---|---|
| 01 | 黒人のブルース |
| 02 | エズラ・パウンド |
| 03 | ウィリアム・カーロス・ウィリアムズ |
| 04 | マリアン・ムーア |
| 05 | リチャード・ライト |
| 06 | カウンティー・カレン |
| 07 | ジャック・ケルアック |
| 08 | ゲーリー・スナイダー |
| 09 | ロバート・ローウェル |
| 10 | チャールズ・オルソン |
| 11 | ジョン・アシュベリー |
| 12 | ジェームズ・ボールドウィン |
| 13 | ボブ・ディラン |
| 14 | アドリエンヌ・リッチ |
| 15 | アリス・ウォーカー（前期のまとめ） |
| 16 | なし |

2023年度シラバス

| 科目名:American Literature Ⅱ | 担当者:小林　愛明 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
この科目はディプロマポリシーに謳われている「専門用語を使用でき理解している」、「研究に必要な思考力（発言力も含む）を身につけている」、「英語を使用した読解力、表現力を身につけている」等に準じて展開される。A. 授業内容 アメリカの代表的な文学作品を読み、歴史・文化・地理的背景について学ぶ。 B. 授業方法 講義を基本としつつ、各作品の暗記や朗読、分析とレポート、議論と発表などを行う。 C. グループワーク、演技・朗読、プレゼンテーションなどの活動を行う。

授業の到達目標
１．アメリカ文学における名詩、名場面、名台詞の暗唱ができるようになる、２．アメリカ文学における代表的詩人を知り、説明ができるようになる、３．アメリカ文学における代表的詩作品の歴史・文化・地理的背景を説明できるようになる。

【到達目標と深く関連する、基準とするDP】
◎専門用語を使用でき理解している（DP）
◎①研究に必要な思考力（発言力も含む）を身につけている（DP）
◎②研究に必要な文章力(プレゼンの力も含む)を身につけている（DP）
◎③研究に必要な情報を整理し繋げ批判する力を身につけている（DP）
◎①英語を使用した読解力、表現力を身につけている（DP）
◎②英語を使用した授業力を身につけている（DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
１．毎週、予習範囲を指定するので、そこを読んで内容をまとめてくること。２．授業後は1.と同じ用紙に授業のまとめと感想を書いて提出すること。なお、１回の授業に対して４時間程度の予習復習をすること。

評価方法
A. 評価の方針　授業中の議論、文章作成への参加とリフレクションの提出を基本に評価する。B. リフレクションとフィードバック　C. 評価に関する要件　①毎回の小レポートの作成（40%）、②講義や議論への参加意欲（20%）、③期末レポート（40%）

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 毎回教員がテキストを配布する。 | 講義中に案内する。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
資料提示はMoodle等を用いて行う。作品の一部を英語で読むので、毎回辞書を持参すること。なお、辞書はリーダーズ・プラス程度のものが望ましい。オフィスアワーに関しては講義内で告知する。連絡手段に関してはMoodleとメールを使用する（LINEなどのSNSは用いない）。レポート作成時には関連図書を図書館で借りる、または自分で買うようにすること。公共交通機関等で遅延等が発生した場合は、原則的に駅で発行される証明書を持参すること。

| | |
|---|---|
| 01 | アメリカのフォークソング（オリエンテーション） |
| 02 | ウォルト・ホイットマン |
| 03 | エミリー・ディキンソン |
| 04 | エドガー・アラン・ポー |
| 05 | T・S・エリオット |
| 06 | デルモア・シュワルツ |
| 07 | ラングストン・ヒューズ |
| 08 | カール・サンドバーグ |
| 09 | シルヴィア・プラス |
| 10 | アレン・ギンズバーグ |
| 11 | ロバート・ブライ |
| 12 | フランク・オハラ |
| 13 | アンソニー・ヘクト |
| 14 | レイモンド・カーヴァー |
| 15 | シャーマン・アレクシー（後期のまとめ） |
| 16 | なし |

# 2023年度シラバス

| 科目名:English Education Ⅰ | 担当者:石渡　雅之 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:None | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
This class is designed for students who want to learn EFL/ESL teaching methods and theories. The goal of of this class is to have ability to teach English to non-native speakers of English.
This course consists of very short lectures, one presentation or paper quizzes, discussions, and reflections.

授業の到達目標
Students who pass this class will be able to:
1-understand the academic vocabulary associated with the course
2-become more aware of the differences and the similarities of SLA theories and methods
3-begin to apply their new knowledge of language and l

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
To build students' critical thinking, they are expected to bring in their ideas, opinions, and background knowledge, which are all to be prepared before each class. In addition, they are expected to manage successful discussions based on what they prepare

評価方法
Monthly reflections-30%
Project paper-20%
Textbook analisys-20%
Term paper-30%
Especially in the textbook analysis, the knowledge about methodology will be asked in detail and give feedback after interview test about it.

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 新しい英語科授業の実践　石田雅近・小泉仁・古家貴雄著（金星堂） | Needed information will be given in each class |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Office:7311

| | |
|---|---|
| 01 | Introduction to teaching English as a second language |
| 02 | Introduction to teaching English as a foreign language |
| 03 | Introduction to teaching as an international language |
| 04 | How to make a lesson plan? |
| 05 | Behaviorism |
| 06 | Cognitive learning theory |
| 07 | Constructivism |
| 08 | Zone of Proximal Development |
| 09 | Communities of practice (COP) |
| 10 | Legitimate peripheral participation |
| 11 | Affective filter |
| 12 | Micro-Teaching preparation |
| 13 | Micro-teaching |
| 14 | Micro-teaching feedback and review |
| 15 | New Course of Study, Oral test |
| 16 | None |

# 2023年度シラバス

| 科目名:English Education Ⅱ | 担当者:石渡　雅之 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:None | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
This course will focus on elements of developing a curriculum for language teaching. Areas that will be explored include needs analysis, goals and objectives, syllabus design, methodology and materials. In class, students will discuss, ask questions and complete quizzes and other activities aimed at developing their knowledge of the field.

授業の到達目標
By the successful completion of this course, students will be able to:
1-develop and focus their learning of TESOL/TEFL curriculum elements
2-make good materials to raise students' motivation
3-understand applied or socio linguistics aspects affecting

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Read the class materials before class each week so students can access the quizzes and other activities in time for class. Be organised-prepare and complete tasks early. Identify their special area of interest early so they can plan their presentation pro

評価方法
35%-reading &quizzes before class
25%-Textbook analisys
20%-Material making and analysis of their effect on learning motivation
20%-Essays writing-
Especially in the textbook analysis, the knowledge about methodology will be asked in detail and give feedback after interview test about it.

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 新しい英語科授業の実践　石田雅近・小泉仁・古家貴雄著（金星堂） | Needed information will be introduced in each class and is available from the moodle site. |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Office 7311

| | |
|---|---|
| 01 | Difference of TESOL, TESL, and TEFL |
| 02 | TEFL needs analysis |
| 03 | Motivation and language learning |
| 04 | Goal and objectives |
| 05 | Syllabus design |
| 06 | Case study assignment |
| 07 | The bilingual brain |
| 08 | Lesson plan template assignment information |
| 09 | Discussion and design |
| 10 | Materials listening |
| 11 | Materials activities |
| 12 | Use of ICT in language teaching classes |
| 13 | English ability for JTE |
| 14 | What is CLT? |
| 15 | Review and Communication in English classes, Oral test |
| 16 | None |

2023年度シラバス

| 科目名:英語科教育学特論Ⅰ | 担当者:石渡　雅之 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:特になし | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
この授業は講義を中心とする。英語教育の基礎的・基本的な内容を理論面・実践面の両側面から再確認する内容から始める。その上で、外国語教育学、国際理解教育学、言語心理学、社会言語学などの幅広い視座から英語科教育を多面的にとらえていく授業へと発展させる。尚、授業内では随時英語科教育のカリキュラムを自分で設計できる実践力を身に付けることを目標とした内容にもふれていく。

授業の到達目標
a. 小学校から高等学校までの各段階における外国語としての英語を効果的に教えるための理論と実践の両面を理解することができる。B. 英語教育学の基礎的・基本的な内容を再確認し、それを踏まえた上で、学際的な視座から英語教育学を多面的にとらえることができる。最終的な目標としては「英語教育諸理論（教授法）の専門知識」を身につけた上で、それらを「教育現場で応用するための専門知識」を身につけることとする。また的確な学習指導要領の分析をするための専門知識を身につけることも目標とする。加えて、左記専門知識を「教育現場において活用できる汎用能力」を身につけることも同時に目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日本の英語教育に関する事実を理解するために文献を調べ、その上で英語教育に関わる指導法等諸理論をしっかりと学ぶ姿勢を持つこと。

評価方法
課題発表（３回）合計３０％　レポート試験　６０％
学習指導要領の求める（学校の）英語科／外国語科における目標について、その理解度を確認するための口述試験（英語）　１０％←これに対して解答の妥当性に関する評価・フィードバックを口頭にて行う（英語）。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 望月昭彦（編著）新学習指導要領にもとづく英語科教育法（大修館書店） | 随時授業にて紹介する |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
特に受講要件として設定するものではないが、英語文献に触れる機会が多いため、英語原書購読ができる程度の英語力が求められる。研究室：７３１１

| | |
|---|---|
| 01 | 授業の進め方、研究方法など |
| 02 | 英語教育と英語教育学 |
| 03 | 英語の国際化と日本の英語教育 |
| 04 | 英語教育学の概要（領域・内容） |
| 05 | 外国語教育概要（日本の小学校英語教育） |
| 06 | 外国語教育概要（日本の中学校英語教育） |
| 07 | 外国語教育概要（日本の高等学校英語教育） |
| 08 | 新学習指導要領と英語科教育法 |
| 09 | 英語学習者論1（学校教育における生徒児童対象） |
| 10 | 英語学習者論２（学校教育外の対象者−成人・外国人） |
| 11 | 日本における英語科教育と国際理解教育 |
| 12 | 総合的な学習の時間と国際理解教育 |
| 13 | 外国語授業カリキュラム論 |
| 14 | 英語教材論1（学校教育での教材） |
| 15 | 英語教材論2（社会教育での教材），口頭試験 |
| 16 | なし |

| 科目名:英語科教育学特論Ⅱ | 担当者:石渡　雅之 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:特になし | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
本授業においては、前記の同科目Ⅰで学んだ内容をベースとして、さらに英語教育学の詳細について多角度から学んでいく。内容としては「教育メディアの活用」という項目も入り、ここでは学習サイト「ムードル」の活用方法、あるいはまとめとして「学習ポートフォリオ」作成などの新しい内容／実践も扱う。また、英語教育学について、学問的な見解をもちながらも実践の教育現場における「リスニング指導のあり方」「ライティング指導のあり方」「スピーキング指導のあり方」「リーディング指導のあり方」、更には「授業分析方法と指導案作成方法」といった実践教育全般に関する諸理論にまで踏み込む内容となる。

授業の到達目標
a. 英語科教育の詳細について多角度から学んでいく。
B.「ICTの教育活用」という新しいテーマを設定し、学習サイト「ムードル」の英語教育への活用方法、あるいはまとめとして英語教育における「学習ポートフォリオ」作成などの実践方法を理解することができる。
C.「リスニング指導のあり方」「ライティング指導のあり方」「スピーキング指導のあり方」「リーディング指導のあり方」「授業分析方法と指導案作成方法」という実践教育全般に関する諸理論を理解することができる。
最終的な目標としては「英語教育諸理論（教授法）の専門知識」を身につけた上で、それらを「教育現場で応用するための専門知識」を身につけることとする。また的確な学習指導要領の分析をするための専門知識を身につけることも目標とする。加えて、左記専門知識を「教育現場において活用できる汎用能力」を身につけることも同時に目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日本の英語教育に関する事実を理解するために文献を調べ、その上で英語教育に関わる指導法等諸理論をしっかりと学ぶ姿勢を持つこと。

評価方法
課題発表（３回）合計３０％
レポート試験　６０％
学習指導要領の求める（学校の）英語科／外国語科における目標について、その理解度を確認するための口述試験（英語）
　１０％←これに対して解答の妥当性に関する評価・フィードバックを口頭にて行う（英語）。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 新学習指導要領にもとづく英語科教育法（大修館書店） | 随時授業にて紹介する |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
特に受講要件は設定しないが、英語文献に触れる機会が多いため、英語原書購読ができる程度の英語力が求められる。尚、前期の授業を履修せずに後期から受講する場合は、前期の授業で行った内容を自ら学び理解した上で、出席することが求められる。
研究室：７３１１

| | |
|---|---|
| 01 | 授業の進め方、研究方法など |
| 02 | 外国語教育学関連の文献購読（英語教育学） |
| 03 | 外国語教育学関連の文献購読（応用言語学） |
| 04 | 外国語教育と教育ICTの活用（教育評価） |
| 05 | 外国語教育と教育ICTの活用（ムードルサイトの活用方法） |
| 06 | リーディング指導に関する諸理論 |
| 07 | ライティング指導に関する諸理論 |
| 08 | リスニング指導に関する諸理論 |
| 09 | スピーキング指導に関する諸理論 |
| 10 | 英語授業評価理論（授業者焦点） |
| 11 | 英語授業評価理論（学習者焦点） |
| 12 | 授業分析方法と指導案作成方法 |
| 13 | 英語教育と異文化理解 |
| 14 | 英語教育と多文化社会理解 |
| 15 | 学習ポートフォリオの作成，口頭試験 |
| 16 | なし |

2023年度シラバス

| 科目名:日本文化特論Ⅰ | 担当者:太田　昌孝 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
文芸作品の中でも特に詩について学ぶ。日本近現代詩の歴史は外国に類を見ない特殊な性質を帯びている。授業では、その特殊性を明らかにするため、日本近現代詩の著名な作品をテキストにして、日本古来の「歌」の伝統を基盤として形成された日本近現代詩にヨーロッパ文学がどのような影響を与えたかについて学ぶ。また、特に西脇順三郎、立原道造、中原中也等を中心とする、昭和初年代の詩人の作品を鑑賞することにより、現代詩という文芸の持つ本質について講義する。

授業の到達目標
日本近現代詩の魅力と鑑賞方法について学ぶ。
・詩という文芸が持つ魅力について、日本近現代詩を代表する作品をもとに理解を深める。
・近代詩及び現代詩の持つ特性を学ぶことにより、詩という文芸の鑑賞方法について理解を深める。
・詩の創作に興味を抱いた受講生は実際に作品を創作する。
・詩に関する専門知識、汎用的思考力を身に付け、多文化共生社会に貢献できる能力を身に付ける。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日本近現代詩の魅力と鑑賞方法について学ぶ。
・詩という文芸が持つ魅力について、日本近現代詩を代表する作品をもとに理解を深める。
・近代詩及び現代詩の持つ特性を学ぶことにより、詩という文芸の鑑賞方法について理解を深める。
・詩の創作に興味を抱いた受講生は実際に作品を創作する。
・文学に関する専門知識を身に付ける。
・広く文芸に関する汎用的思考力を身に付ける。
・各時間の講義内容について、予習（120分）・復習（60分）・小レポート作成（60分）を行う。

評価方法
課題20%、レポート80%という割合で評価する。課題、レポート共に題目との合致性、講義内容の反映度、及び正しい日本語表現が用いられているかを基準とする。評価について質問等がある場合はメールで対応する。レポートに関しては評価を付けて返却する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 随時、プリントを用意する。 | 「日本文学大事典」等 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
系統的な講義なので欠席をしないようにすること。m-ohta@nagoyacollege.ac.jp

| | |
|---|---|
| 01 | 講義概説（講義の目標とその概説） |
| 02 | 詩学入門1（日本近現代詩の成立と展開・明治から大正） |
| 03 | 詩学入門2（日本近現代詩の成立と展開・昭和から平成） |
| 04 | 作品鑑賞1（萩原朔太郎と口語自由詩）「月に吠える」味読 |
| 05 | 作品鑑賞2（宮沢賢治の世界）「春と修羅」味読 |
| 06 | 作品鑑賞3（立原道造の抒情詩1）「萱草に寄す」味読① |
| 07 | 作品鑑賞4（立原道造の抒情詩2）「萱草に寄す」味読② |
| 08 | 作品鑑賞5（中原中也の魅力）詩編二作読解 |
| 09 | 作品鑑賞6（西脇順三郎の詩と詩論1）「超現実主義詩論」分析① |
| 10 | 作品鑑賞7（西脇順三郎の詩と詩論2）「超現実主義詩論」分析② |
| 11 | 作品鑑賞8（鮎川信夫と戦後詩）「死んだ男」味読 |
| 12 | 作品鑑賞9（谷川俊太郎の抒情と感性1）「二十億光年の孤独」味読① |
| 13 | 作品鑑賞10（谷川俊太郎の抒情と感性2）「二十億光年の孤独」味読② |
| 14 | 作品鑑賞11（活躍する現代詩人）和合亮一と小池昌代 |
| 15 | 講義のまとめ：現代詩の行方 |
| 16 | なし |

2023年度シラバス

| 科目名:日本文化特論Ⅱ | 担当者:太田　昌孝 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
文芸作品の中でも特に詩について学ぶ。日本近現代詩の歴史は外国に類を見ない特殊な性質を帯びている。授業では、その特殊性を明らかにするため、日本近現代詩の著名な作品をテキストにして、日本古来の「歌」の伝統を基盤として形成された日本近現代詩にヨーロッパ文学がどのような影響を与えたかについて学ぶ。また、特に西脇順三郎、立原道造、中原中也等を中心とする、昭和初年代の詩人の作品を鑑賞することにより、現代詩という文芸の持つ本質について講義する。

授業の到達目標
日本近現代詩の魅力と鑑賞方法について学ぶ。・詩という文芸が持つ魅力について、日本近現代詩を代表する作品をもとに理解を深める。・近代詩及び現代詩の持つ特性を学ぶことにより、詩という文芸の鑑賞方法について理解を深める。・詩の創作に興味を抱いた受講生は実際に作品を創作する。文学に関する専門知識を身に付ける.
・詩に関する専門知識、汎用的思考力を身に付け、多文化共生社会に貢献できる能力を身に付ける。(DP)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
・詩集を数冊選び、興味深く読んだ作品をコピーする。
・各時間の講義内容について、予習（120分）・復習（60分）・小レポート作成（60分）を行う。
・近代詩及び現代詩の持つ特性を学ぶことにより、詩という文芸の鑑賞方法について理解を深める。
・詩の創作に興味を抱いた受講生は実際に作品を創作する。

評価方法
課題20%、レポート80%という割合で評価する。課題、レポート共に題目との合致性、講義内容の反映度、及び正しい日本語表現が用いられているかを基準とする。レポートに関しては評価を付けて返却する。評価について質問等がある場合はメールで対応する。レポートに関しては評価を付けて返却する。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 随時、プリントを用意する。 | 「日本文学大事典」等 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
系統的な講義なので欠席をしないようにすること。m-ohta@nagoyacollege.ac.jp

| | |
|---|---|
| 01 | 講義概説（講義の目標とその概説） |
| 02 | 詩学入門1（日本近現代詩の成立と展開・明治から大正） |
| 03 | 詩学入門2（日本近現代詩の成立と展開・昭和から平成） |
| 04 | 作品鑑賞1（萩原朔太郎と口語自由詩） |
| 05 | 作品鑑賞2（宮沢賢治の世界） |
| 06 | 作品鑑賞3（立原道造の抒情詩1） |
| 07 | 作品鑑賞4（立原道造の抒情詩2） |
| 08 | 作品鑑賞5（中原中也の魅力） |
| 09 | 作品鑑賞6（西脇順三郎の詩と詩論1） |
| 10 | 作品鑑賞7（西脇順三郎の詩と詩論2） |
| 11 | 作品鑑賞8（鮎川信夫と戦後詩） |
| 12 | 作品鑑賞9（谷川俊太郎の抒情と感性1） |
| 13 | 作品鑑賞10（谷川俊太郎の抒情と感性2） |
| 14 | 作品鑑賞11（活躍する現代詩人） |
| 15 | 講義のまとめ |
| 16 | なし |

2023年度シラバス

| 科目名:観光学特論Ⅰ | 担当者:辻　のぞみ | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
日本のインバウンド観光政策の歴史と現状について、観光庁による「観光白書」ほか、国の観光政策資料をベースに、講義とディスカッション、課題発表形式で授業を行う。

授業の到達目標
日本や世界のインバウンド観光や観光政策の歴史と現状を様々な視点から学ぶことにより、インバウンド観光の意義や役割についての理解を深め、専門的知識や汎用的思考力を身につけることができる。(DP)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業の予習・復習のほか、事例の実地視察やレポートを授業外の課題として指示します。（授業１回あたり平均4時間程度）

評価方法
授業参加態度、積極性50%、課題レポートの作成、課題のプレゼンテーション等50%。レポートやプレゼンテーションに対して授業内でフィードバックを行います。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 適宜資料を配布します | 必要に応じて提示します。 |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段はメール n-tsuji@nagoyacollege.ac.jp です。

| | |
|---|---|
| 01 | インバウンド観光とは |
| 02 | 世界のインバウンド観光の状況1　送り出し市場の状況 |
| 03 | 世界のインバウンド観光の状況2　旅行者受け入れ国の状況 |
| 04 | 日本のインバウンド観光の歴史1　明治維新～昭和の貿易摩擦の時代 |
| 05 | 日本のインバウンド観光の歴史2　ビジットジャパンキャンペーン～現在まで |
| 06 | 訪日旅行の市場1　全世界の状況 |
| 07 | 訪日旅行の市場2　アジア市場 |
| 08 | 訪日旅行の市場3　欧米市場 |
| 09 | 訪日旅行の市場4　その他の市場 |
| 10 | 訪日旅行の市場5　今後の展望 |
| 11 | インバウンド観光政策1　インバウンド観光政策の意味 |
| 12 | インバウンド観光政策2　世界のインバウンド観光政策 |
| 13 | インバウンド観光政策3　日本のインバウンド観光政策 |
| 14 | インバウンド観光プロモーション1　観光マーケティングとは |
| 15 | インバウンド観光プロモーション2　インバウンド観光プロモーションについて考えよう |
| 16 | なし |

2023年度シラバス

| 科目名:観光学特論Ⅱ | 担当者:辻　のぞみ | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
様々なレベルにおける観光客誘致について学ぶ。特に地域における観光政策に基づく観光振興の取り組みについて、また特にそのインバウンド観光への取り組みについて、講義とディスカッション形式で授業を行う。実地視察調査によるレポートやその発表も行う。

授業の到達目標
観光客誘致やインバウンド観光振興の取り組みについて、地元地域における具体例による学びによりその理解を深め、専門的知識や汎用的思考力を身につけることができる。(DP)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業の予習復習のほか、事例の実施視察調査やレポートを授業外の課題として指示します。（授業１回あたり平均4時間程度）

評価方法
授業参加態度、積極性50%、課題レポートの作成、課題のプレゼンテーション等50%。レポートやプレゼンテーションに対して授業内でフィードバックを行います。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| 適宜資料を配布します | 必要に応じて提示します |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡手段はメール　n-tsuji@nagoyacollege.ac.jp です。

| | | |
|---|---|---|
| 01 | ガイダンス | 本講義の内容と進め方について |
| 02 | 日本における観光政策・観光マーケティングとその担い手について | |
| 03 | 中部地方の観光政策1 | 広域観光推進組織とその活動について |
| 04 | 中部地方の観光政策2 | 昇龍道における取り組み |
| 05 | 中部地方の観光政策3 | 中部地方主要地域における観光振興の取り組み1 |
| 06 | 中部地方の観光政策4 | 中部地方主要地域における観光振興の取り組み2（発表） |
| 07 | 愛知県の観光政策1 | 愛知県の観光推進組織とその活動 |
| 08 | 愛知県の観光政策2 | 「あいち観光戦略」を読み解く |
| 09 | 愛知県の観光政策3 | 愛知県の観光プロモーション事業（発表） |
| 10 | 名古屋市・豊明市の観光政策1 | 名古屋市の行政による観光への取り組み |
| 11 | 名古屋市・豊明市の観光政策2 | 豊明市の行政による観光への取り組み |
| 12 | 名古屋市・豊明市の観光政策3 | 名古屋市・豊明市の観光への取り組みのまとめ（発表） |
| 13 | インバウンド観光振興1 | 日本各地におけるインバウンド観光振興の取り組み |
| 14 | インバウンド観光振興2 | 中部地方におけるインバウンド観光振興の取り組み |
| 15 | インバウンド観光振興3 | 愛知県・名古屋市におけるインバウンド観光振興の取り組み |
| 16 | なし | |

2023年度シラバス

| 科目名:歴史学特論Ⅰ | 担当者:布　和 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
　この授業は、大学院地域文化専攻のポリシーである「世界的視野で地域課題にアプローチ」できる人材の育成に合致し、前近代の日中交流史から日本史全体を眺めるものである。授業では、時代ごとの文献史料を提示して解説し、学生との質疑応答を行い、学生の理解度を確かめながらフィードバックを行う予定である。

授業の到達目標
　授業を通じて、前近代の日中交流史について深く理解し必要な専門知識を身につけ、新たな視点で日中関係を見つめ直すことができるようになる。また、関係文献及び論文を通読することにより資料の使用と応用法を学習し、併せて汎用的な思考法を身につける（DP）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　授業で提示された文献史料などを４時間程度をかけて事前・事後の勉強と復習を勧める。

評価方法
　６回以上の欠席は単位取得ができない。授業参加意欲(30%)、プレゼンテーション（30%）及びレポート(40%)で評価する。なお、プレゼンテーションの場を設けて評価することでフィードバックとする予定。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| プリントを配る予定 | 授業で指定する |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業計画は進度によって多少な変更が生じる。担当教員のメイルアドレスbuhe@ohkagakuen-u.ac.jp

| | |
|---|---|
| 01 | 講義説明 |
| 02 | 日中交流の幕開け①「親魏倭王」印の発見 |
| 03 | 日中交流の幕開け②倭の「五王」の使者派遣 |
| 04 | 遣隋使の派遣 |
| 05 | 遣唐使の時代 |
| 06 | 蒙古襲来①襲来の前夜 |
| 07 | 蒙古襲来②襲来の経過と影響 |
| 08 | 第一回目の学生によるプレゼンテーション |
| 09 | 倭寇の時代①倭寇の出現と対馬 |
| 10 | 倭寇の時代②後期倭寇と五島列島 |
| 11 | 琉球の中継貿易①薩摩藩の侵攻前 |
| 12 | 琉球の中継貿易②両属状態下において |
| 13 | スペイン・オランダ時代の台湾 |
| 14 | 明清交替期の台湾の鄭氏政権と日本 |
| 15 | 第二回目のプレゼンテーション |
| 16 | なし |

2023年度シラバス

| 科目名:歴史学特論Ⅱ | 担当者:布　和 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格: | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限: | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
　この授業は、大学院地域文化専攻のポリシーである「世界的視野で地域課題にアプローチ」できる人材の育成に合致し、近現代の日中交流史から日本史全体を眺めるものである。授業では、文献史料を提示し解説して学生との質疑応答を行い、学生の理解度を確かめながらフィードバックを行う予定である。授業は前期の講義Ⅰの延長である。

授業の到達目標
　この授業を通じて、近現代の日中交流史について深く理解し必要な専門知識を身につけ、新たな視点で日中関係を見つめ直すことができるようになる。また、関係文献及び論文を通読することにより資料の使用と応用法を学習し、併せて汎用的な思考法を身につける（DP）。

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
授業で学ぶことになる文献史料を４時間程度をかけて事前・事後に予習と復習することを勧める

評価方法
　６回以上の欠席は単位取得ができない。授業参加意欲（30%）、プレゼンテーション(30%)及びレポート(４0%)で評価する。なお、プレゼンテーションの場を設けて評価することでフィードバックとする予定。

| 教科書 | 参考図書 |
|---|---|
| プリントを配る予定。 | 授業で指定する |

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業計画は進度によって多少な変更が生じる。担当教員のメイルアドレスbuhe@ohkagakuen-u.ac.jp

| | |
|---|---|
| 01 | 講義説明 |
| 02 | 近代日本の開国 |
| 03 | 近代中国の開国 |
| 04 | 琉球処分について①明治政府の動き |
| 05 | 琉球処分について②琉球側の対応 |
| 06 | 日清関係と朝鮮①日朝修好条規を中心に |
| 07 | 日清関係と朝鮮②1882年の朝鮮開国 |
| 08 | 第一回目の学生によるプレゼンテーション |
| 09 | 日本の清国留学生①初期の来日 |
| 10 | 日本の清国留学生②分野別の留学生 |
| 11 | 日中戦争前夜の国際関係 |
| 12 | 日中戦争の過程 |
| 13 | 魯迅と内山完造の出会い |
| 14 | 内山完造の思想 |
| 15 | 第二回目のプレゼンテーション |
| 16 | なし |

2023年度シラバス

| 科目名:言語学特論Ⅲ | 担当者:都　恩珍 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 前期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:本年度遠隔授業対応可能科目 | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
この授業は、地域文化専攻多文化共生社会の創造のために貢献できる高度な専門知識、語学能力、汎用的思考力を身に付けるためのものである。授業では、あらゆる角度から言語活動の意義と実態を補足しようとする言語学の諸研究成果を取り上げながら、それらの問題についてじっくり考察していくことを目的とする。参考文献やテキストを精読し、自分なりの理解を述べながら討議し、最後に与える主題についてレポートを提出する。授業は、テキストを中心に進めるが、関連文献やデータ紹介を並行することがある。

授業の到達目標
日常の「ことば」を注意して観察・意識しながら、「ことば」を通して生活や社会の営みを捉える視点を持つことができる。（DP)
言語学の諸研究領域についての基礎的な理解を深めることができる。（DP)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
新聞や雑誌、日常での会話など、生活の中の「ことば」の不思議を意識し、データを分析し、規則性を見つける。
授業外に必要とされる学習時間：約4時間

評価方法
テキストの各テーマの要約と意見のまとめ（40%）
期末のレポート（「生活の「ことば」の不思議を分析する」）と発表（40%）
学修活動への参加（課題への取り組み・授業中の意見交換などの姿勢）（20%）
次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についてフィードバックする。

教科書
『言語科学の世界へ　ことばの不思議を体験する45題』　東京大学言語情報科学専攻編　東京大学出版会　2011年

参考図書
『日本語の特質』金田一春彦　日本放送出版協会　1991年
『日本語社会のぞきキャラクリ』定延利之　三省堂　2011年
『新・はじめての日本語教育１　日本語教育の基礎知識』高見澤孟　他　ask　2018年
『新・はじめての日本語教育２　日本語教授法入門』　高見澤孟　他　ask　2018年

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日常の「ことば」を研究の対象として観察すると様々な規則性が見えてきます。そのことを意識して取り組みましょう。
連絡先は授業中に提示します。オフィスアワー：水曜２限、金曜2限

| | |
|---|---|
| 01 | オリエンテーション |
| 02 | 言語学の諸研究領域を解説する |
| 03 | 「意味」の側面からとらえたことばの現象（1) |
| 04 | 「意味」の側面からとらえたことばの現象（2) |
| 05 | 「対照」の側面からとらえたことばの現象（1) |
| 06 | 「対照」の側面からとらえたことばの現象（2) |
| 07 | 「構造」の側面からとらえたことばの現象（1) |
| 08 | 「構造」の側面からとらえたことばの現象（2) |
| 09 | 「変異」の側面からとらえたことばの現象（1) |
| 10 | 「変異」の側面からとらえたことばの現象（2) |
| 11 | 「音」の側面からとらえたことばの現象（1) |
| 12 | 「音」の側面からとらえたことばの現象（2) |
| 13 | 「処理」の側面からとらえたことばの現象（1) |
| 14 | 「処理」の側面からとらえたことばの現象（2) |
| 15 | まとめと発表 |
| 16 | なし |

2023年度シラバス

| 科目名:言語学特論Ⅳ | 担当者:都　恩珍 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 講義 |
| 免許・資格:中学校・高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 後期 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:本年度遠隔授業対応可能科目 | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
この授業は、地域文化専攻多文化共生社会の創造のために貢献できる高度な専門知識、語学能力、汎用的思考力を身に付けるためのものである。授業では、社会言語学を中心に取り上げ、とりわけ日本の社会言語学における諸研究成果について考察し、我々の言語生活・言語行動を社会・文化の観点で捉える。関連文献を精読し、自分なりの理解を述べながら討議し、主題についてレポートを提出する。

授業の到達目標
社会言語学がどういう分野なのか理解することができる。（DP）
自身の生活と社会言語学がどういう関係があるのかを考えることができる。（DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
日ごろの言語生活を社会言語学的に捉え、データを集め、分析する。
授業外に必要とされる学習時間：約4時間

評価方法
テキストの各テーマの要約と意見のまとめ（40%）
期末のレポート（「身近な言語行動（言語生活）の一例を取り上げ、社会言語学的に分析する」）と発表（40%）
学修活動への参加（課題への取り組み・授業中の意見交換などの姿勢）（20%）
次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解や誤解についてフィードバックする。

教科書
『社会言語学入門　生きた言葉のおもしろさにせまる』　東照二　研究者出版　1997年

参考図書
『社会言語学の展望』真田信治編　くろしお出る版　2006年
『応用社会言語学を学ぶ人のために』　ダニエル・ロング、中井精一、宮治弘明　世界思想社　2001年
『改訂版　多文化共生のコミュニケーション　日本語教育の現場から』徳井厚子　アルク　2020年

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
日常の「ことば」を研究の対象として観察すると様々な規則性が見えてきます。そのことを意識して取り組みましょう。
連絡先は授業中に提示します。オフィスアワー：水曜２限、金曜2限

| | |
|---|---|
| 01 | 社会言語学とは何か |
| 02 | 言語の選択（1） |
| 03 | 言語の選択（2） |
| 04 | 言語のバリエーション（1） |
| 05 | 言語のバリエーション（2） |
| 06 | 言語とコンテキスト：社会言語学の理論（1） |
| 07 | 言語とコンテキスト：社会言語学の理論（2） |
| 08 | 社会言語学とその周辺（1） |
| 09 | 社会言語学とその周辺（2） |
| 10 | 言語政策・言語計画（1） |
| 11 | 言語政策・言語計画（2） |
| 12 | 言語政策・言語計画（3） |
| 13 | 多文化共生のコミュニケーション（1） |
| 14 | 多文化共生のコミュニケーション（2） |
| 15 | まとめと発表 |
| 16 | なし |

| 科目名:スクールインターンシップ（英語） | 担当者:石渡　雅之 | 開講学科等 | 大学院(地域) |
|---|---|---|---|
| | | 授業形態 | 実習 |
| 免許･資格:中学校･高等学校教諭専修免許状（英語） | | 開講時期 | 通年 |
| | | 配当学年 | 1 |
| 受講者制限:中学校、または高等学校外国語（英語）１種免許保持者。正規有資格受講者に限るものとし、科目等履修や聴講は認めない。 | | 単位数 | 2 |
| | | 必須.選択 | 選択必須 |

授業概要と方法
授業概要
この科目は本大学院・地域文化専攻において、教職課程を履修する大学院生を対象としているもので、本大学院教育に協力してくださる桜花学園高等学校における、教職業務について研修体験を通して学ぶことを目的としている。学部で履修する「教育実習」では教科指導（授業実習）に重点が置かれるのに対して、「スクールインターンシップ」は、授業補助や生徒との交流などに重点を置きながら、教職業務全般について経験することをねらいとしている。研修は全部で以下３部（第１研修～第３研修）の構成である。
第１研修（事前研修９０分×４回）で今日の教育課題、教員の職務と校務分掌等を学んだ後に、第２研修（実地研修）として桜花学園高校において（１回＝高校における標準１単位時間を５０分として換算し）通年合計で４０回以上の研修を行い、終了後第３研修（事後研修９０分×２回）として、研修体験について報告を英語で行う。その際に意見や体験交流を行い、教職の意義、課題等について認識を教職経験から深めるように、プログラムが計画されている。
授業方法
第１部と第３部は大学における講義とする。第２部は高等学校における実地研修とする。研修内容は高等学校の指導に従うこと。

授業の到達目標
a. 生徒理解と指導に重点を置きながら、教職全般について経験しながら教職に対する理解を深めることができる。
b. 学習指導要領の記載事項と実際の教科指導はどのようなつながりが見られるか、という点について授業実践や教職経験から分析することができる。
c. 教師の業務全般について、経験を通して理解することができる。
最終的な目標としては「英語教育諸理論（教授法）の専門知識」を身につけた上で、それらを「教育現場で応用するための専門知識」を身につけることとする。また的確な学習指導要領の分析をするための専門知識を身につけることも目標とする。加えて、左記専門知識を「教育現場において活用できる汎用能力」を身につけることも同時に目標とする。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
「インターンシップを行うことに関する心得」、「教師の服務・役割や仕事全般」、「教師に求められる資質や能力」、「教師を支える学校事務職員の存在」「教師の悩みと不安」、「学校内における教師同士の人間関係」について、それぞれ書籍などを利用して理解を深めておく必要がある。
また、インターンシップを通した到達目標の詳細を各自で設定する必要がある。

評価方法
①高等学校（研修校）からの評価　50％

②プログラム終了時に課すレポート　50％
（このうち、高等学校からの評価については、その内容の妥当性を確認するため、英語による口頭面接試験を行う。その面接時の解答について、再度分析を行い、フィードバックもする。この部分が配点ー５０％ーの２割を占めるものとする）

教科書
下記１または２のいずれか（または両方）を購入すること。
１：田島充士「学校インターンシップの科学」（ナカニシヤ出版2016）
２：合田哲雄「学習指導要領の読み方・活かし方―学習指導要領を「使いこなす」ための８章」（教育開発研究所2019）

参考図書
文部科学省　高等学校学習指導要領、および解説

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
一度決めたインターンシップ活動を途中で止めることはできないほか、インターンシップ中は自己都合を優先できない場合がほとんどである、ことを十分に理解すること。そのほか、受け入れていただく高校からの指示には全面的に従うこと。なお、本授業履修に当たり、大学院研究科委員会、ならびに大学院専攻会議の判断が必要とされる場合がある。
担当者研究室：７３１１

| | |
|---|---|
| 01 | （※以下の５～１３回は例示であり、課題設定によって内容や順番が変更される可能性がある）<br>1事前講義①　目的と進め方（スクールインターンシップとは何か？評価はどのように行うのか？）<br>2事前講義②　教師の服務・教師の役割・教師の職務と公務分掌<br>3事前講義③　教師の勤務実態・教師の悩みと不安・教師の資質と能力・今日の教育課題<br>4事前講義④　演習インターンシップにおける具体的な課題設定<br>5　インターンシップ①（課題設定１：生徒理解と指導１）<br>6インターンシップ②（課題設定１：生 |
| 02 | |
| 03 | |
| 04 | |
| 05 | |
| 06 | |
| 07 | |
| 08 | |
| 09 | |
| 10 | |
| 11 | |
| 12 | |
| 13 | |
| 14 | |

| | |
|---|---|
| 15 | |
| 16 | |
| 17 | |
| 18 | |
| 19 | |
| 20 | |
| 21 | |
| 22 | |
| 23 | |
| 24 | |
| 25 | |
| 26 | |
| 27 | |
| 28 | |
| 29 | |
| 30 | |
| 31 | |